

## 学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の過程
取り組む課題	生徒の学力の充実 → 生徒の希望する進路の実現
評価指標	①希望進路実現率の向上 ②授業アンケートと総合学科アンケートにおける生徒の授業満足度の向上
計画名	「夢をかなえよう KUNIJIMA STYLEで」

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1. 主体的な学習に向けた授業改善の推進</p> <p>(1) 学習方法や方略を獲得させ、生活習慣を見直すことで、学習行動を促しその習慣化を図る。</p> <p>ア. 学習オリエンテーションの実施 1年時において学習オリエンテーション並びに支援週間〔学習相談とつまづき克服〕（年3回）を設定する。</p> <p>イ. スモールステップでの学習振り返り 週末課題を設定し、定期的に学習の振り返りを行うとともに、課題学習を習慣化することによって、主体的な学びへの意欲を育てる。</p> <p>(2) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりの推進</p> <p>ア. 「視覚化・協働化・構造化」をキーワードにした授業改善の推進を図るための研修と相互に公開授業研修会を昨年度に引き続いて実施する。（研修2回/年、公開授業2回/年）</p>
事業目標	<p>本校では「未来を変える意欲と学力」の育成を目標に、平成22年度よりPISA型学力を、平成24年度よりOECDのキーコンピテンシーを、学校全体で育成すべき力の具体的組織目標として明示してきた。現在は、その牽引役として教育課程内にコアカリキュラム授業群を設置するとともに、特別活動や科目選択（本校は総合学科）等の取組みも含めた全ての教育活動を、キーコンピテンシー育成のための手段として位置づけている。</p> <p>コアカリキュラムとして以下の科目を設置している（全て必修科目）。</p> <p>〔1年次〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフプランニング（産業社会と人間） 自分を知り、他者を知り、社会を知る</li> <li>・視点・論点 現代社会を生きていくための基礎知識・教養を学ぶ</li> <li>・論理演習 朝学モジュール形式（10分×5日）で、読解力・論理的思考力を身につける</li> <li>※：教材として「論理エンジン」（水王舎）を活用している</li> </ul> <p>〔2年次〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働（前期） グループワークで課題を解決する力を身につける （企業連携による商品開発、地域の安全マップ作成等を行っている）</li> <li>※：平成21年には杉並区立和田中学校元校長・藤原和博先生によるケータイを使った「よのなか」の授業を実施した。</li> <li>・探求（後期） 与えられたテーマに基づいて、調べ方を学ぶ</li> <li>※：平成27年度入学生より協働を通年科目に変更し、その中に探求の内容を包含する</li> <li>・小論文 自分の考えをまとめ、相手に伝える文章を書く</li> <li>・論理演習 朝学（10分×5日）モジュールで、読解力・論理的思考力を身につける</li> </ul> <p>〔3年次〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論文（前期） 資料を活用し、根拠を伴った論文を書く</li> <li>※：平成27年度入学生より論文を通年科目に変更し、Kプロジェクトから名称変更する</li> <li>・プレゼン 自分の考えを正しくわかりやすく伝える技術を学ぶ</li> <li>※：平成27年度入学生より、協働の中にプレゼンの内容を包含する</li> </ul> <p>○総合学科である本校には約140の選択科目があり、コアカリキュラムをはじめとしてその大半が教科書のない科目である。生徒の興味関心に答える授業を展開するため、担当者は2時間連続の授業を独自に作成した教材で試行錯誤を繰り返しながら教えている。また、学校設定科目は2時間連続の授業であり、講義形式の授業で生徒の興味関心を引き出すことは難しい。</p> <p>○上記にあるように「視覚化・協働化・構造化」をキーワードにした授業改善の推進を図り、それが「生徒の学力の充実」「生徒の希望する進路の実現」につながるためにも、全教室にプロジェクターを常設するなど、以下のような視聴覚機器を導入して創意工夫あふれた授業ができるようチャレンジしたい。</p>
整備した 設備・物品(数量)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教室 天吊り型プロジェクター 一式</li> <li>・電子黒板機能付きプロジェクター 22台</li> <li>・マグネットスクリーン 22台</li> </ul>
取組みの 主担・実施者	教頭、社会科、地域連携部長
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来を変える意欲と学力」として、学校全体で育成すべき力の具体的組織目標とするOECDによるキーコンピテンシー育成を旨としたICTを活用した授業改善</li> <li>具体的には</li> <li>・コアカリキュラム授業群の実践成果を生かした、各教科・科目の授業改善、生徒主体の学習形態（アクティブラーニング）の深化</li> <li>・ユニバーサルデザインを意識した「視覚化・協働化・構造化」をキーワードにした授業改善の推進</li> <li>・上記のテーマを柱とした研究・公開授業の実施</li> </ul>
成果の検証方法 と評価指標	<p>学校教育自己診断における生徒・保護者の授業満足度の向上</p> <p>具体的には、以下の設問によって検証する。</p> <p>①授業では、体験型授業やグループワークなど生徒が主体的に参加し、学習する意欲が高まる工夫がされている。（アクティブラーニングの深化）</p> <p>②授業では、物事を論理的に考え、表現するを伸ばすための工夫が感じられる。</p> <p>③授業では、他者との協働を通して課題を解決する力を伸ばすための工夫が感じられる。</p> <p>④授業では、興味・関心のある分野について探求する力を伸ばすための工夫が感じられる。（キーコンピテンシーの育成）</p> <p>⑤授業では、視聴覚機器やコンピュータなどICT機器が活用されている。（授業のユニバーサルデザイン化）</p>
自己評価	<p>※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×）</p> <p>学校教育自己診断における各項目の結果は、以下のとおりである。</p> <p>①保護者86.8% 生徒70.4% 教職員93.8% ②保護者79.8% 生徒67.9% 教職員81.8%</p> <p>③保護者79.0% 生徒73.1% 教職員90.9% ④保護者84.6% 生徒77.0% 教職員84.8%</p> <p>⑤保護者80.5% 生徒79.4% 教職員84.8%</p> <p>上記の指標から、</p> <p>①プロジェクター等の機器の各教室への導入によって、生徒の主体的な活動を行う場面を取り入れやすい使用しやすい環境が整い、教職員は、アクティブラーニングへ積極的にチャレンジしている。今年度12月に実施した研究授業週間において、研究テーマを「アクティブラーニングへの挑戦」として全教科の代表教員が授業を実施した。</p> <p>ただ、生徒の数値からわかるように、その改善が生徒の学習意欲向上やキーコンピテンシーの育成への結びつきが不十分で質の向上が必要である。（○）</p> <p>②③④今年度においては、本事業の活用が年度途中であったことと、育成する力（キーコンピテンシー）は3年間通じての獲得という視点で見ると、実感するところまでの改善を進めることができなかった。（△）</p> <p>⑤各教室に設置したことによって、各教員の使用頻度が飛躍的に向上したため、「視覚化・協働化・構造化」という視点での授業改善が進んでいる。（○）</p>
次年度に向けて	<p>次年度も、「未来を変える意欲と学力」として、学校全体で育成すべき力の具体的組織目標とするOECDによるキーコンピテンシー育成をめざしたICTを活用した更なる授業改善</p> <p>具体的には次の2点を実施する。</p> <p>(1) 組織[教科]としてのアクティブラーニングの深化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科における年度教育計画の策定（教科目標〔育成したい力〕の明確化）〔4月〕</li> <li>・目標に基づいた公開・研究授業の実施〔6月・12月〕</li> <li>・研修体制の充実（先進的取組み実践校の見学等〔8月・11月〕</li> <li>・年度末総括の実施〔12月〕</li> </ul> <p>(2) 学習評価の改善に向けた研修の実施〔12月〕</p>